

わが町のここが聞きたい

問

公民館など移転
中心市街地が空洞化懸念

答

「集える場所のある町」づくり
新たな価値を生み出す



質問者の動画が
視聴できます。

こん
今

かつよし
勝吉 議員



問
今議員

①旧木造高校深浦校舎へ公民館や文学館の機能を移転し、その後、歴史民俗資料館の展示物も移設すると聞いているが、そうなる中心市街地は空洞化し、「通り過ぎる町」と言われるようになる。町長のまちづくりビジョンは。
②旧木造高校深浦校舎の利活用に合わせて合崎一体の環境整備を行い、観光振興に注力すべきと思うが。

答
町長

①公民館や文学館、歴史民俗資料館等を集約した社会教育関連施設に移行する方向で検討している。近くには深浦診療所や保健センターもあり、他の施設との複合化や集約化は、子育て世代や高齢者等とのふれあいの場や世代間交流の機会をつくることにもつながり、にぎわいの空間、地域の活性化等、新たな価値を生み出すものと考えますので、「通り過ぎる町」ではなく、「集える場所のある町」づく



▲歴史民俗資料館



▲ふかうら文学館



▲公民館

りと捉え、ご理解いただきました。



ハマヒルガオ ハマイブキボウフウ

ニツコウキスゲ

②行合崎は、国内で少なくなつた「海岸自然草原」が広がり、希少な植物が数多く生育することで知られております。その希少な自然景観、自然植生を保全することに努め、自然散策や植物観察等を行う自然レクリエーションや環境教育の場として活用することが最善ではないかと考えております。

わが町のここが聞きたい

医療費の抑制、生活習慣病の発症予防・健康策は

『子供の頃から将来の予防目指す』

問 今議員

①急速な高齢化に伴う本町の医療費の増大が予測される。生活習慣病の発症等の予防や健康増進策は。

②医療費の抑制にもつながらる健(検)診受診率は。また、一人当たりの医療費の推移と健(検)診後のフォローは。

答 町長

①子供の頃から、将来の生活習慣病予防を目指して学校と連携し、継続実施していくことと、特定健診の未受診者に対して、受診勧奨や啓発活動また、利便性を考えて土曜日の予約健診や個別健(検)診を実施するなど、受診しやすい体制づくりにも努めている。昨年度からは、後期高齢者の生活習慣病等の重症化予防や

生活機能の低下を防止する介護予防にも取り組んでいる。

②昨年度の特定健診41・6パーセント、胃がん検診14・6パーセント、大腸がん検診24・0パーセント、肺がん検診22・6パーセント、乳がん検診20・6パーセント、子宮頸がん検診18・2パーセントで、前年度比で、特定健診は1・5ポイント増えたが、各種がん検診の受診率は横ばいとなっている。一人当たりの医療費の推移は、分かっている平成29年度から令和3年度までの5年間の平均額は34万6243円(国民健康保険加入者)で、ほぼ横ばいで推移している。また、健診後のフォローとして、まず、1つ目は特定健診受診者を対象としたQOL[※]健診の実施、2つ目は、特定健診の結果から生活習慣病のリスクが高く、生活習慣の改善で効果が期待できる方を対象とした特定保健指導、3つ目は、健(検)診で「要精検」(精密検査)と判定された方の受診確認と受診

勧奨、4つ目は、健診後の糖尿病予備軍を対象に「糖尿病予防・改善教室」の集団支援や、糖尿病性腎症が懸念される対象者には個別支援を実施している。



熊・イノシシ、今後の対策は

『農作物の適切な管理など地域と一体で取り組む』

問 今議員

①今年度は鳥獣、特に熊の出没が多く、人家近くにも出没し、正に異常である。従来の対応では済まされないのではないか。今後の対策は。

②岡町地区でイノシシが捕獲され、駆除されたと聞いている。今後の対策と町民に対する周知は。

答 町長

①9月頃からクマの目撃情報が急増し、11月30日現在、目撃情報は179件、捕獲数は77頭で、この5年間では、今年が最多となっている。出没時の対応としては、防災無線で住民への注意を呼び掛けるとともに、農林水産課職員による花火での追い払いと警察による付近のパトロールを行い、それでも出没が常態化した場合は、箱ワナによる捕獲、また、畑周りや雑木林の下草刈りを行うよう、適宜、農業者等に指導している。

予防策として、定期的に防災無線でクマに対する注意喚起、行政連絡員会議や広報紙を利用して、柿や栗を放置しておかないようお願いしている。

②10月26日、現場の足跡からイノシシと判断して箱ワナを設置したところ、翌日、親子と思われる2頭を捕獲した。

今後も、捕獲についての対策強化を農林水産課に

※QOL健診=弘前大学が開発した、即日2時間で測定・結果通知・健康教育まで完成させるコンパクト型の健診。QOLは、クオリティ・オブ・ライフの略(生活の質)のことで、「その人らしく充実した生活を送る」という意味。

わが町のここが聞きたい



指示したが、この対策には、住民による目撃情報や被害情報の提供、農作物の適切な管理など、地域が一体となって取り組む必要がある。今後の状況によっては被害防止に向けた研修会の実施などを検討していく。

町独自の 後継者対策は 『担当課と十分協議し 施策の展開に努力』

問 今議員

① 来年度の予算方針として、町の基幹産業である一次産業振興策、特に後継者育成に対する独自の振興策はあるのか。
② 町を元気にする観光振興策はどのように考えているのか。特に「十二湖振興戦略プラン」の進捗状況は。

答 町長

① 過疎化や少子高齢化による労働力不足は深刻化している。特に一次産業は、所得水準の低さ、労働内容の厳しさ、技術習得の難しさなどの要因から後継者不足と新規就業者が少ないと考えられる。一次産業の従事者が減ることは、耕作放棄地の拡大や森林の荒廃、鳥獣被害の増加、自然災害の頻発化、地域コミュニティの機能低下など、様々な問題が

起こることとなる。これらの課題を考慮して、各業種における必要かつ有効な事業を国の施策を活用しながら、青森県や農協・漁協などと連携して一次産業の振興に向けた総合的な対策として進めている。また、町独自の後継者育成対策については、これから始まる予算編成の中で、担当課と十分に協議・検討し、農業は「就業のしやすさ」、林業は「就業環境の改善」、水産業は「資源の回復」などが、後継者を育成し、確保する鍵となるので、これらに対応した施策の展開に努めていく。

② 「十二湖振興戦略プラン」は令和3年11月に策定され、令和8年度までの6か年計画で、今年度は3年目に当たり、計画に基づき廃業店舗の解体を年度末までに終え、展望デッキの整備を予定していたが、7月の豪雨災害で国・県との協議等に時間を要し、翌年度への繰越しが避けられない状況となった。そのほか、来年度は、豪雨災害で不通となっ

ている王池遊歩道の復旧工事を前倒しするほか、そのほかの不通箇所も進めていきたい。

一日も早く、かつてのように広く周遊散策を楽しめる十二湖に復旧することが、更なる来客増加につながり、町へ元気を呼び戻すものになると確信して取り組んでいく。

